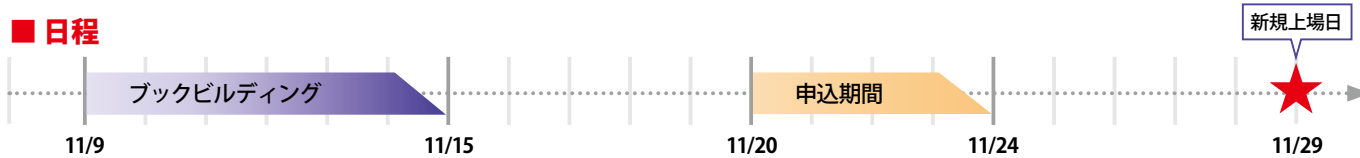


IPO銘柄 トレードワークス (3997・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3997	100 株	公募：20.00 万株 売出：1.00 万株 (OA3.15 万株)	2,000 円～ 2,200 円 (13.5 倍)	岡三証券



証券システム事業やFXシステム事業など展開

■ 事業内容

証券システム事業と、それに付帯するFX (外国為替証拠金取引) システム事業、セキュリティ診断事業を展開する。証券システム事業では、証券会社、金融情報システムサービス会社向けシステムの開発、保守、運用を手掛ける。FXシステム事業では、FX会社向けシステムについてパッケージ製品の販売、請負開発のほか、製品導入後の保守、運用も行う。セキュリティ診断事業としてソフトウェア、ネットワークの脆弱性を突いた個人情報など重要情報の漏えいや、不正侵入、不正操作の危険性を診断するサービスも提供。ここでは顧客のWebアプリケーション、ネットワークを診断するサービスのほか、定期的に自動で脆弱性を診断できるツール「SecuAlive」の提供も行う。17年12月期2Qの売上高構成比は証券システム事業が87.6%、FXシステム事業が9.1%、セキュリティ診断事業が3.3%。

■ 特徴

証券システム事業の主要製品には投資家向けインターネット証券取引システム「Trade Agent」、高機能ディーリングシステム「Athena」、証券取引所売買端末「Mars Web」、インサイダー取引など不公正な取引を監視する「MTS」などがある。証券取引に精通した知識、豊富な実績、高い信頼性など多くの要素が求められ、技術革新のスピードが速いこともあり、トップクラスの専門エンジニア集団の育成に注力し、差別化を図っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

17年12月期の非連結経常利益は2億700万円を計画する。連結子会社であったワークステクノロジーを18年9月に清算している。主軸の証券システム事業の拡大を見込んでいる。新規案件が寄与するほか、保守・運用系のストック売上高も増加する見込みにある。

■ 定性分析

ビジネスモデル自体に新鮮味はないものの、日経平均株価などの主要指数が歴史的な高水準となるタイミングでの株式公開であることから多くの投資家から注目を集めそうだ。相場活況による証券会社の業績好調と設備投資意欲の高まりに恩恵を受ける可能性もある。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は5億円程度。ベンチャーキャピタル保有株もなく、需給面は非常に良好となっている。なお、主要顧客でもあるカブドットコム証券(8703)は上場前ベースで発行済み株式の10.87%を保有する3位株主となっている。(小泉健太)

■ 類似企業

トレードワークス(9264・JASDAQ)	予想PER13.5倍 (仮条件上限)
インタートレード(3747・東証2部)	予想PER —
エクスネット(4762・東証1部)	予想PER17.1倍

■ 引受証券

岡三証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、三木証券、日産証券、エイチ・エス証券、SBI証券、東洋証券、岩井コスモ証券、みずほ証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
15年12月期(実績)	908	—	108	—	67	—	93.1	—
16年12月期(実績)	1,174	—	141	—	116	—	159.9	—
17年12月期(会社予想)	1,395	—	207	—	134	—	163.3	—

※ 15年12月期は連結決算、16年12月期の期中より非連結決算。
16年10月と17年9月に株式分割(1株→5株、1株→100株)を実施。15年12月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
15年12月期	1,460	650	259	42	355.1	39.8	30.2
16年12月期	7,300	689	375	42	514.5	54.5	31.7

※ 16年12月期の期中より非連結決算。15年9月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	浅見 勝弘	388,000	42.19
2	TW従業員持株会	132,000	14.35
3	カブドットコム証券	100,000	10.87
4	市川 俊雄	60,000	6.52
5	スペース・ソルバ	55,000	5.98
6	三木証券	50,000	5.44
7	日産証券	30,000	3.26
8	松葉 祐司	15,000	1.63
9	中川 秀夫	10,000	1.09
9	徳島 直哉	10,000	1.09
9	安藤 千年	10,000	1.09

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長	浅見 勝弘
取締役(営業部長)	徳島 直哉
取締役(管理部長)	安藤 千年
取締役(システム事業部長)	吉崎 力
取締役	梅原 久和
常勤監査役	森山 武彦
監査役	中川 秀夫
監査役	高橋 雅之

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。